

ヨハネの福音書 第11章 25節

「イエスは言われた。『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。』」

歴史に記憶される危機が起こるとき、誰もが命の脆さに目覚めさせられる。危機は、人生の目覚まし時計のようなものとなる。普段あまり考えもしなし、気にしないことが次々襲い、あなたはとうとうと迫る。普段目を半分開けた生活が危機で過剰といえる程目が全開になる。

全開したところの目に見えるのは何か。取り乱す自分か、混乱している感情か、殻に閉じこもった自分か、それとも、危機が過ぎるのを漫然と眺めるだけの自分か。そんな自分が危機のなかでウロウロしている。繰り返される危機情報が流れるまま終わる日を待ち聞き続ける。

そこに、イエスは言われた。「死んでも生きるのです。」危機にあって、死の淵にあっても聞くのはこの真理である。聞き流すことのできないことばである。死の向こうに行かれたお方の御声こそ、いつも、どこでも聞きたい。この御声を聞き続け、語る僕の話がある。終身刑、死刑判決を受け獄中生活する者たちへのメッセージがある。世間に出る機会が失われ、明日の命がわからない者たちに、イエスは言われた、と上なるいのちを届けるのだ。